農大生が成城のみどりを研究しました！

学生が自らフィールドに出て現地でデータを収集し、分析・考察・結論を導くというプロセスは、学生にとって現場で学びながら成果を出す貴重な経験となりました。今回の研究では、世田谷区のまちづくりや成城地区の皆さんにも貢献できる成果となり、非常に意義のある取り組みになったと思います。

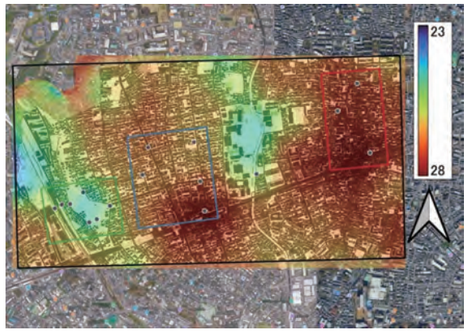
【指導教員】入江彰昭氏 東京農業大学地域環境科学部 教授

都市の緑の価値を「見える化」しました。

都市の緑の冷却効果の見える化と
区民の緑に対する理解促進のための調査研究

リー・ケネス・アイダンさん

近年ヒートアイランド現象により、東京のような大都市では夏の暑熱環境が社会の課題となっています。一方、街路樹や公園などの緑は日射遮蔽や蒸発散により気温を低下させる効果があることが多くの研究で示されています。しかし、こうした緑地の冷却効果は区民にとって分かりにくいのが現状です。そこで、成城（緑が多い地域）と祖師谷（緑が少ない地域）を対象に、区民にとって分かりやすく都市の緑の価値を可視化する調査研究を行いました。今回の研究では、都市緑地がなぜ大切なのかを直感的に伝えることができ、冷却効果の可視化は、緑地計画や区民に対する緑の効果や価値の理解促進につながる有効な手段になると考えます。



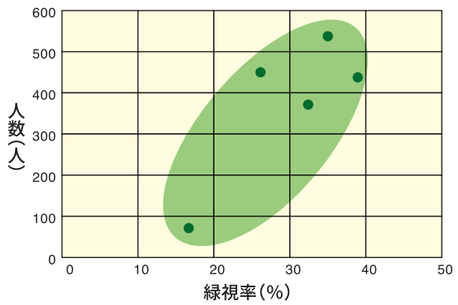
祖師谷、成城、成城みつ池の地域の午前5時の気温シミュレーション
周辺市街地から流入した比較的高温の空気がみつ池へ移動し、緑地率の高いみつ池周辺で冷却されている様子が確認された。冷却された空気は、地形の影響を受けながら野川方向へと流下しており、みつ池が周辺の気流に対して冷却源として機能している可能性が示唆される。

成城の街路で探る、“歩きたくなる理由”は緑にあった。

成城地区における歩行者行動と
緑の接触に関する基礎的研究

藤本あかりさん

都市における緑地は、環境の保全機能だけではなく、地域住民にとっての健康活動の場となり、都市の生活者に心理的・身体的効果を与えています。本研究では、住宅地域である成城学園前駅周辺を対象に、歩行者の行動と緑との関係を明らかにすることを目的としました。そこで、野川沿い通りや成城通りなどの5つの街路を対象に歩行者通行量と緑視率を計測し、歩行者の行動と緑との接触の関係について分析しました。その結果、緑の存在が歩行環境の快適性や街路選択に影響している可能性が示唆されました。こうした研究成果が、ウォーカブルなまちづくりにおける緑の配置や歩行空間の改善につながることを期待します。



緑視率と歩行者の関係（平日）
緑視率と歩行者の人数の関係を散布図に表すと、歩行者数と緑視率の相関係数は強い相関があった。成城地域での歩行者の調査を通して、歩行者の多く通る通路に優先的に緑を配置することで接触を効率的に高められ、緑の量だけではなく、街路樹、民家の生け垣など緑の質も快適性において重要であると思われる。

まだまだつづく！「いいあんばい」のみどりづくりに乞ご期待

成城に根差したみどりづくりと、その広がりを支える取り組みを続けていきます。ニュースレターでは、“いいあんばい”の活動や成城のみどりの魅力を発信していきます。
地域とともに歩むこの取り組みに、引き続き関心をお寄せいただければ幸いです。次号もどうぞお楽しみに。

お問合せと連絡先
世田谷区 環境政策部 気候危機対策課
TEL: 03-6432-7135 / FAX: 03-6432-7981

SEIJO GREEN CITY に関する詳細はこちら!!
世田谷区

SEIJO GREEN CITY 公式SNSはコチラをチェック
Instagram　LINE

Design: hiyocostudio / Illustration: Yukiko Murai

SEIJO GREEN CITY
世田谷区

成城いいあんばいニュースレター
制作：2026年4月1日
世田谷区／世田谷トラストまちづくり
©Setagaya City. All rights reserved.

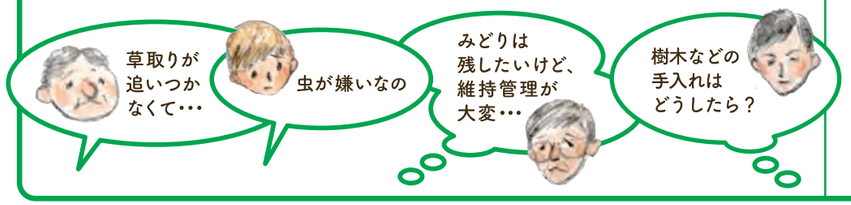
成城いいあんばいニュースレター

Vol.01

「いいあんばい」のみどりづくりのコツ

みどりのある暮らしには、うれしさと同じくらい小さな悩みもつきものです。手入れが追いつかなかったり、思い通りにいかなかったり……そんな声をよく耳にします。けれど実は、みどりは“がんばりすぎない”ほうがすこやかに整います。草は全部抜こうとせず、気になるところだけそっと手を入れるくらいで十分。樹木も、風と光が通るよう少し意識するだけで、無理なく育ちます。落ち葉は資源として土に返すことで、自然の力をそのまま活かせます。こうした“いいあんばい”の関わり方は、作業やコストの負担をやさしく減らしながら、みどりを心地よく保つコツです。手をかけすぎず、放置もしない。その間にあるちょうどよさを見つけることで、みどりはもっと身近で、無理なく続けられる存在になっていきます。

みどりを所有する人たちのお悩み



SEIJO GREEN CITYの取組みとみどり支援について

成城のみなさん、こんにちは！世田谷区の気候危機対策課です。

成城では今、「SEIJO GREEN CITY」という新しい地域づくりが始まっています。気候変動が進むなか、CO_2を減らすだけでなく、暮らしやすさや地域の魅力をより高めていこうという思いから生まれた取り組みです。みどり豊かな住宅地で、地域活動も盛んな成城だからこそ、住民の皆さんと力を合わせて進めていけるプロジェクトだと考えています。

なかでも大切にしているのが“みどり”緑のある風景は心をほっとさせ、暑さを和らげ、生きものを育み、まちの魅力を形づくる成城の大切な財産です。SEIJO GREEN CITYでは、みどりの役割や環境への効果を「見える化」し、無理なく続けられるみどりづくりを応援しています。

今後は、庭づくりのヒントが得られる講座や、みどりの価値を紹介する広報などを通じて、“いいあんばい”のみどりを地域に広げていきます。みどりを通して、成城の未来を皆さんと一緒に育てていけたらうれしいです。

SEIJO GREEN CITYが取組む「みどり」づくりとは？

戸建住宅によくある植栽帯のみどりづくり

【成城5丁目のお宅の場合】

戸建て住宅の前庭などによく設けられる小さな花壇をモデルに、みどりづくり支援を行いました。成城五丁目Ｉさんはガーデニングが大好きな方です。敷地内のみどりはすべて日頃からきちんと整え、美しく維持されておられます。ただ、前庭の花壇は北西側の壁面沿いに位置し、３本の常緑樹があるため1年中花壇に日差しや雨水が十分行き届かず、下草が生育しづらい状況がありました。

実際に、世田谷トラストまちづくり生きものアドバイザー山崎裕志氏による昆虫等調査を実施したところ、寒くなり始めた11月下旬だったとはいえ、カメムシの仲間やアリ、ダンゴムシなどの仲間が確認できた程度でした。

そこで、雨水や植栽の専門家とともに検討、Ｉさんともお話しし、現状の植栽から残すもの以外は一旦整理し、植栽リニューアルのため、新たな植栽方針を立てることや、植栽帯への給水は雨水でまかなえるような給水システムをつくることなどを決めました。

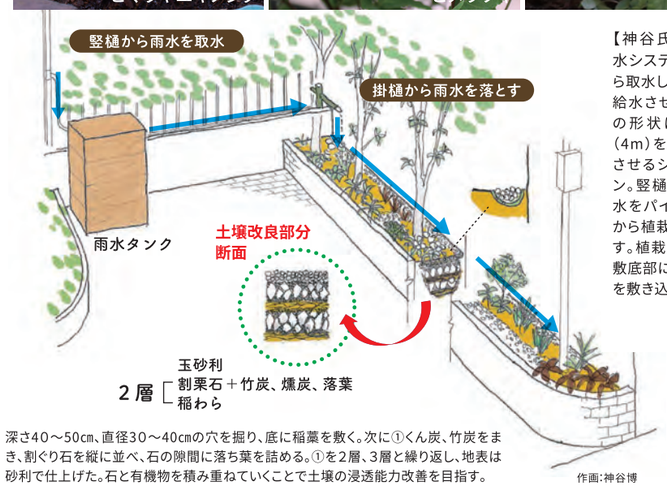
【松下氏考案の植栽方針】現在の状況をふまえ、植栽方針を①耐陰性の高い植物を選ぶ、②生物多様性を高めるため粗密な空間づくりと多種類の植物を選ぶ、③背景となる外壁色（黄色）に合う色彩設計、④常緑樹の見た目の強さに対し宿根草で線形や柔らかさを加える、としました。

ヒマラヤユキノシタ

ヒメウツギ

ティアレラ

【専門家】
左:神谷博氏
（法政大学エコ地域デザイン研究センター客員研究員）
右:松下美香氏
（オーガニック&レインガーデナー）



【神谷氏考案の雨水給水システム】雨水を樋から取水し前庭の植栽帯へ給水させるため、植栽帯の形状に合うよう竹材（4m）を加工し、導・配水させるシステムをデザイン。竪樋から取水した雨水をパイプで導水、掛樋から植栽帯に落水させます。植栽帯に設けた砂利敷底部には穴あき半割竹を敷き込みました。

深さ40～50cm、直径30～40cmの穴を掘り、底に稲藁を敷く。次に①くん炭、竹炭をまき、割ぐり石を縦に並べ、石の隙間に落ち葉を詰める。①を2層、3層と繰り返し、地表は砂利で仕上げた。石と有機物を積み重ねていくことで土壌の浸透能力改善を目指す。

作画:神谷博

左 半割竹材、右手前 仕上げ用玉砂利、奥 竹炭、腐葉土など

手前から、稲藁、中段左 もみ殻くん炭、右 竹炭、奥左 落葉樹や常緑樹、多種混交の落ち葉、右 割ぐり石

【BEFORE】常緑樹のキンモクセイの樹勢に上空を覆われ日差しや雨水が届きにくく、下草が生育しづらい状況に。シダ類やクリスマスローズなどが弱々しく見られる。右手の道路側は比較的日当たりが良い。

【AFTER】既存クリスマスローズは活かし、日陰に耐えるヒマラヤユキノシタやティアレラなど宿根草を、日差しが入る道路側にはアナベルを植栽。全体的にスッキリと明るい印象に。苗が育ち開花するのが待ち遠しい。

成城のみなさんと学ぶ「いいあんばい」みどりのお手入れのコツ

「庭のお手入れ、がんばりすぎていませんか」のメッセージで募集した「“いいあんばい”のみどりのお手入れのヒントを学ぼう【講座＆実践】」（2026年2月14日開催）。時間も人手も予算も有限ですが、つい“全部をきれいにしなくては”と思ってしまいがち。でも、庭はもっと気楽に“いいあんばい”で付き合ってよい。

講座では、庭全体を観察し、ほどよいバランスで手入れができる見立てのコツ、さらに、人にも生きものにも優しい手入れのコツを学びました。

真冬の開催でしたが、定員15名を大幅に上回る28名の応募を頂きました！

“いいあんばい”のみどりのお手入れ 5つのキーワード

- **①風：**植物どうし隙間をつくって風通しを良くし、病虫害予防に
- **②光：**陽の光は植物に必要不可欠。季節で変わる日の長さや太陽の傾きも大切
- **③雨や水、④空気：**しめ固まった土は雨水や酸素が供給されにくく、土中の微生物や根も不活発に。土中環境を意識する
- **⑤生きもの：**庭に多様な生きものが住めるよう工夫し、生態系のバランスを保つ

「多様な生きものが生育・生息できる生態系のバランスが取れた環境づくりが大切」

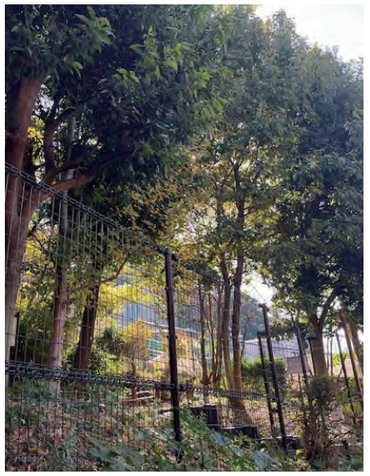
生きものの利用や植物の繁茂は完全にはコントロールできません。雑草などを適度に残し、刈草や落ち葉、剪定枝を少し庭の隅に残しておくことは天敵を含め小さな生きものの住処となります。鳥や昆虫などはいつしか居つき定期的に見回りに来ます。生きものたちの力を借りてみるのもよいのです。

山崎裕志氏
（世田谷トラストまちづくり生きものアドバイザー）

「風を通す、落ち葉と剪定枝を捨てない、木の根を元気にする、そんな手入れ大切にしています」

岩谷克之氏
（元・一般社団法人大地の再生結の杜づくり 理事）

枝をゆらして絡みやぶつかりのある枝、しなる箇所を切ると風通しが良くなります。木の根の周りには移植ゴテで小さな穴を掘り、空気や水を入れて根を活性化させます。剪定枝は細枝なら10cmほどに切って株元に置くと根株の保護や保湿に役立ちます。太枝も切り揃えて積んでおくと見栄えがよく、環境との共生にもつながります。



広い民有の緑地の維持管理 光と風を当てて生態系を取り戻す「いいあんばい」の手入れのコツ

広い庭でも、“いいあんばい”の手入れによって無理なくみどりを維持していくことができます。今回、私たちは「成城三丁目崖の林市民緑地」で、その実証実験を始めました。国分寺崖線上にある西向きの斜面樹林地で、コナラなど落葉樹が多く冬の日差しはありますが夏は薄暗く鬱蒼としています。

調査では、ヤブカンゾウやツルボなど里山でよく見られる植物を確認しましたが、光不足により多くが開花に至っていない可能性が高いことが分かりました。

現状をふまえ、地表に光が届くよう、緑地全体に繁茂するアズマネザサの年2回刈り、樹木の枝透かし、土中に空気と水の供給を促す点穴（てんあな）など、“いいあんばい”のコツを取り入れながら手入れを進めています。斜面のササは土留めとして残し、通り沿いの平場に日差しを十分に届け、下草を豊かに。今年の初夏には、オレンジ色のヤブカンゾウの群落が見られるかも？！ぜひお楽しみに。

ツルボ

ヤブカンゾウ

このほか成城三丁目には、宿根草を中心としたエコガーデン「こもれびの庭市民緑地」や、崖線の斜面に山野草が息づく「なかんだの坂市民緑地」など、自然を身近に感じられる緑地があります。季節ごとに変わる景色を味わいに、ぜひ訪れてみてください。